

ソフトボール部インターハイ出場報告

わずか10人 絆固く

今大会最少の10人で挑んだ夏は終わりました。6年ぶりにインターハイに出場した高田北城高校女子ソフトボール部は1回戦で、強豪の日出高校(東京)と対戦し、0-4で惜しくも初戦敗退しました。2年間、県大会で準優勝に甘んじ悔し涙を流したナインは、最後に晴れ舞台をつかみ、有終の美を飾りました。

応援してくださいました上越ソフトボール協会、高田北城高校後援会、高田北城高校同窓会並びに地元企業をはじめ地域の皆様方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

笑顔でプレー
うしろさ失わず



2013 北部九州総体

ソフトボール 高田北城、初戦突破ならず



【日出-高田北城】高田北城は三回表二死、二、三塁のピンチで杉山恭香(右)が三振に仕留め、笑顔でナインとマウンドを駆け下りる(福岡市・雁の巣レクリエーションセンター)

強豪・日出に0-4

異体決勝でも失点し、不安のあった立ち上がり。強襲安打と暴投が絡み先制点を許し、なお、相手4、5番に連続「暴打」を打たれた。「守備からリスマを取ろう」とあえて後攻めを選んだが、緊

張からか、エースの杉山恭香(3年)の投球も守備も本来のリズムで入れなかった。打撃は全国レベルの速球を意識し、ノーステップで振り抜く打撃を練習してきた。だが、一回が四球を選んだ(3年)が四球を選んだ(3年)外、走者が出ず、ノーヒットに封じ込まれた。都大会わずか1失点の相手エースの球は「手元で伸びてきた」と松井。いい当たりが相手野手の正面を突く不運もあった。

劣勢の展開にも、北城らしさは存分に見せた。杉山は一回以降立ち回り、直球とライズボールで、中盤は好調のパロメーターというフライアウトを重ねた。遊撃手の池田美里(3年)がライナーを横すべり、右翼手の箕輪裕衣(1年)が好捕するなど再三のピンチを守りきった。「美勝(しょうしょう)の台言葉通り、ピンチを脱する度に笑顔がはじけた」。

竹田博英監督は「無安打は悔やまれるが、相手が上。よく守り、うちらしい内容のある試合だった」とたたえた。捕手の橋本みき副主将(3年)は「大舞台でみんなにいいプレーが出てうれしい」と話し、池田主将も「きょうの試合が3年間、一番楽しかった」と、やりきった表情を浮かべた。

(上越タイムス社より転載許可済み)